

地域に根ざしたプログラムを通じた コミュニティの組織化とその影響の評価研究

The Philippines / フィリピン



Imelda A. Macaraig イメルダ (13期)
セント・メアリー大学 コミュニティサービスセンター

2017年から5か年のプロジェクトとして、ソーシャルワーカーが地域住民とともに生活改善のためのプログラムを実施してきました。本助成事業では、生計、廃棄物処理、災害準備についての研修やセミナーを実施し、プログラムの評価を行いました。

イメルダさんの活動紹介

<専門分野> 地域開発

<日本での研修>

期	第13期 (1996年3月来日)
研修先	くず葉学園 (精神薄弱者更生施設)、三愛荘 (精神薄弱者更生施設)、合掌苑 (特別養護老人ホーム)、鎌倉保育園 (養護施設)、黒松内つくし園 (養護施設)
フォローアップ研修	期間: 2012年12月13日~25日 研修先: なぎさ和楽苑 (特別養護老人ホーム)

※施設種別は当時のもの

<母国での福祉活動>

帰国後は地域開発にかかる研究者、ソーシャルワーカーとして活動しています。2013年には、全社協が実施したフィリピン台風の被災地支援にも地元リエゾンとして協力いただきました。現在はセント・メアリー大学に所属し、学生に社会福祉を教えながら、地域開発にかかる研修や活動、コロナの影響を受けた大学生への教育支援等も行っています。また、フィリピン社会省に承認された「登録ソーシャルワーカー連合」の地区リーダーを務め、オンラインでの心理社会的サポートを支援しています。



学生たちとのコミュニティワーク



地域での活動開始前の説明

活動地の状況・課題

活動地は、マニラ首都圏の東に位置するリサール州ロドリゲスにあるパロサピス・ロワン地区です。対象コミュニティの人びとの多くは運搬、工事、野菜販売、ゴミあさりを収入源としてその日暮らしをしており、「貧困」が問題となっています。



母親を対象とした生計に関するミーティング



首都・活動地：
マニラ
(リサール州ロドリゲス)

事業の目的

技能や生計の訓練によってコミュニティの人びとが収入を維持すること、人びとの協力と参加によってコミュニティ全体を改善・発展させることが本事業の目的です。

本事業は2017年に始動し、2017・2018年度にも本助成を受けています。最終年度となる2021年度は、これまでに実施したサービスおよびプログラムがコミュニティと地域住民に与えた影響を評価する研究も実施しました。

事業の成果

- 研修、セミナー、その他の活動を通して関わったコミュニティの情報とニーズ評価を更新することができました。
- 生計プログラムにより、参加者の所得が向上し、コロナ禍でも継続的に収入を得ることができました。また、参加者が陶器づくりに関する新しい技術を身につけたことで、所得創出の支援を行うベンチャー企業が関心をもつようになりました。
- 廃棄物管理と災害準備活動についてのセミナーは、コミュニティ全体の洪水を減らし、衛生向上につながりました。
- 評価研究により、これらのプログラムはコミュニティの人びとをエンパワメントする（一人ひとりが本来もつ力を発揮し、自らの意思決定により自発的に行動するよう働きかける）のに十分であり、今後もプログラムとサービスを継続すべきであることがわかりました。



廃棄物管理と清掃活動



データ収集

実施経過

2021年4月～5月

コミュニティの最新情報についてオンライン／対面による評価

コミュニティについての情報を集めました。そして、集めたデータを確認するために、コミュニティ・リーダーとのグループ・ディスカッションを行いました。



2021年5月～10月

リーダーシップ研修のフォローアップとセミナー

コミュニティリーダーたちは、例えば、災害が発生した場合に、子どもたちやその家族などコミュニティの人びとの安全を確保します。

新しいリーダーたちがコミュニティを率いて、福祉の発展につながる活動を展開していくことをめざし、リーダーシップ研修のフォローアップとセミナーを実施しました。



2021年6月～11月

生計についてのセミナーの最終段階：陶器づくり

これまで生計技術の向上をめざしたセミナーやトレーニングを実施してきました。その最終段階として、陶器づくりを習得し、収入源とするためのセミナーを実施しました。



2021年8月～12月

廃棄物管理および災害準備活動についてのセミナーの最終段階

2021年12月～2022年3月

プロジェクトの評価研究

プログラムやサービスが地域の人びとの生活に与えた影響を査定するため、以下の調査研究を行いました。

① アンケート調査

- A) 年齢、性別、学歴などの回答者情報の収集
- B) 学習効果についての5段階評価

② フォーカス・グループ・ディスカッション

若年層と中年層に分けて、プログラムやサービスが地域の人びとの生活に与えた影響について議論を行い、以下のような意見が聞かれました。

〈若年層〉

- 自分たちの才能を見出し、自らの仕事に自信をもった。
- 社会福祉分野の理学士号（理系の四年制大学を卒業すると得られる学位）の取得をめざすようになった。

〈中年層〉

- チームとして決定し、他人の意見をよく聴くことの大切さを学んだ。
- 若年層の人びとを以前より支援するようになった。

今後の活動・展望

- 調査結果およびコミュニティの人びとやリーダーからの提案によると、コミュニティの持続可能性と発展のために、依然として支援が必要な分野もあります。
- しかし、このコミュニティには、研修を受け能力のあるリーダーが育ち、生計プロジェクトを継続できる働き手がいる、人びとの参加が約束されたコミュニティへと変化しました。

収支報告

全体事業額：668,588 円

助成額：313,894 円

<主な使途>

- 評価活動、セミナー開催にかかる経費
(講師謝金、交通費、資料印刷費)

<収入>

項目	金額(円)	内訳
全社協からの助成金	313,894	
自己資金	354,694	
合計	668,588	

<支出>

項目	金額(円)	内訳
コミュニティの最新情報評価	96,000	印刷費 24,000 参加者管理・通信費 12,000 お茶代 24,000 交通費 16,800 講師謝礼 19,200
リーダーシップ研修・セミナー	120,000	印刷費 24,000 参加者管理・通信費 12,000 お茶代 36,000 交通費 25,200 講師謝礼 22,800
生計セミナー：陶器づくり	156,000	材料費 26,400 参加者管理・通信費 14,400 お茶代 57,600 交通費 33,600 講師謝礼 24,000
廃棄物マネジメント	24,000	清掃用品 24,000
プロジェクト評価	272,588	資料費・印刷費 85,894 交通費 50,400 研究者謝金 136,294
合計	668,588	

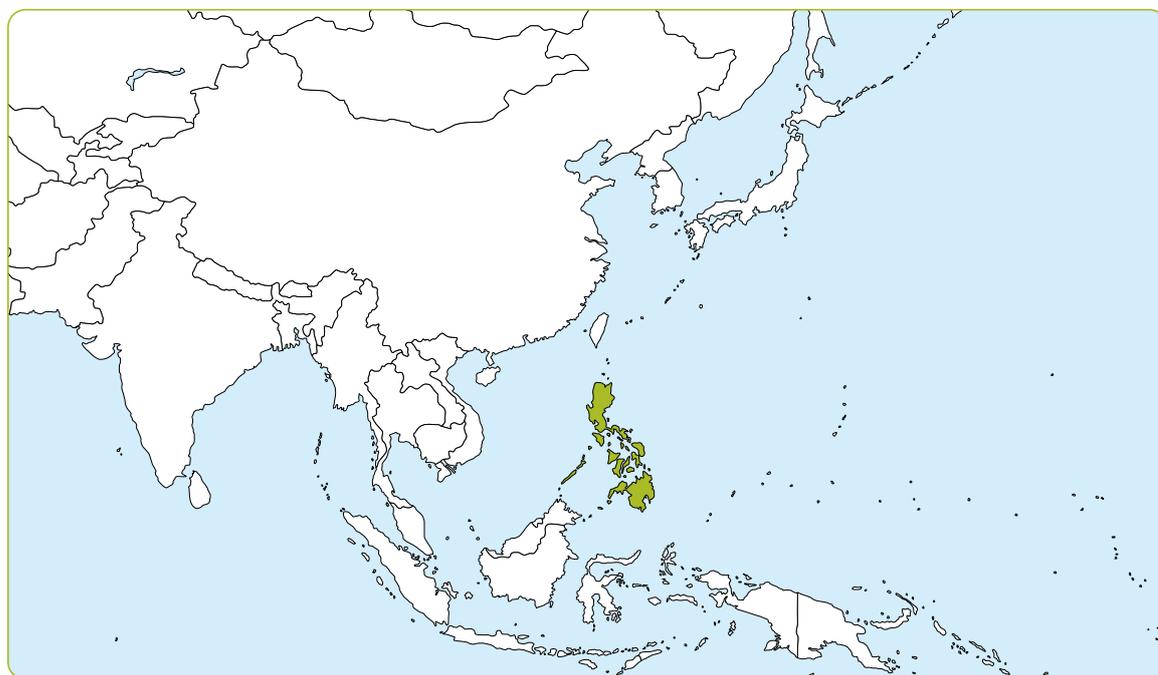
注) フィリピンペソ (PHP) で提出された報告をもとに日本円に換算して表記
換算レート：1 フィリピンペソ≒2.40 円 (送金日 (2021年5月18日) の為替レート)

事業の様子を
収めた動画は
こちらから



The Philippines

フィリピン共和国 基本情報



面積 ^{※1}	約 30 万km ² (2020 年) 日本の約 8 割
人口 ^{※1}	1 億 958 万人 (2020 年)
人口密度 ^{※1}	363 人/km ² (2020 年)
主要民族 ^{※2}	マレー系が主体、他に中国系、スペイン系等
主要言語 ^{※2}	国語はフィリピン語 公用語はフィリピン語、英語
主要宗教 ^{※2}	カトリック 83%、その他キリスト教 10%、イスラム教 5%
政治体制 ^{※2}	共和制
1人あたりの国民総所得 ^{※1}	3,985 米ドル (2019 年)
通貨 ^{※1} (1米ドル = 109.010 円換算)	1 米ドル = 49.624 フィリピンペソ (2020 年平均) 100 円 = 46.477 フィリピンペソ
平均寿命 ^{※1}	男 67 歳、女 74 歳 (2019 年)
65 歳以上人口割合 ^{※3}	5.72% (2021 年)
合計特殊出生率 ^{※4}	2.5 (2020 年)

※1 統計局 世界の統計 2022 <https://www.stat.go.jp/data/sekai/0116.html>

※2 外務省 HP <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/index.html>

※3 World Bank Population ages 65 and above (% of total population) - Philippines
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.POP.65UP.TO.ZS?locations=PH>

※4 World Bank Fertility rate, total (births per woman) - Philippines
<https://data.worldbank.org/indicator/SP.DYN.TFRT.IN?locations=PH>